フクドジョウ

Noemacheilus barbatulus toni

ドジョウ科

フクドジョウ

名前の由来

「ドジョウ」は「土生」の意とか、中国での呼び名「泥鰌・泥鰍」の字音に由来するとか、「泥津魚」の意とか、諸説があるが定説はない。「フク」は不明。漢字名：福泥鰌

特定種

該当なし。

形態的特徴

全長20㎝。体は細長く、正面から見ると頭がやや横に広がった形をしている。体色は黄褐色で、暗褐色の不規則な斑紋がある。腹は白い。

上唇に３対のヒゲ、眼の下に棘はない。尾ビレはやや湾入する。

フクドジョウ。尾ビレがバチ形、口ヒゲは３対６本

類似種と見分け方

エゾホトケ、ドジョウ。

体側に黒いラインがあるドジョウは、エゾホトケのみ。但し、メスには黒いラインがない。

フクドジョウは尾ビレがバチ型（三角）なのに対して、ドジョウとエゾホトケはシャモジ型（まるい）。

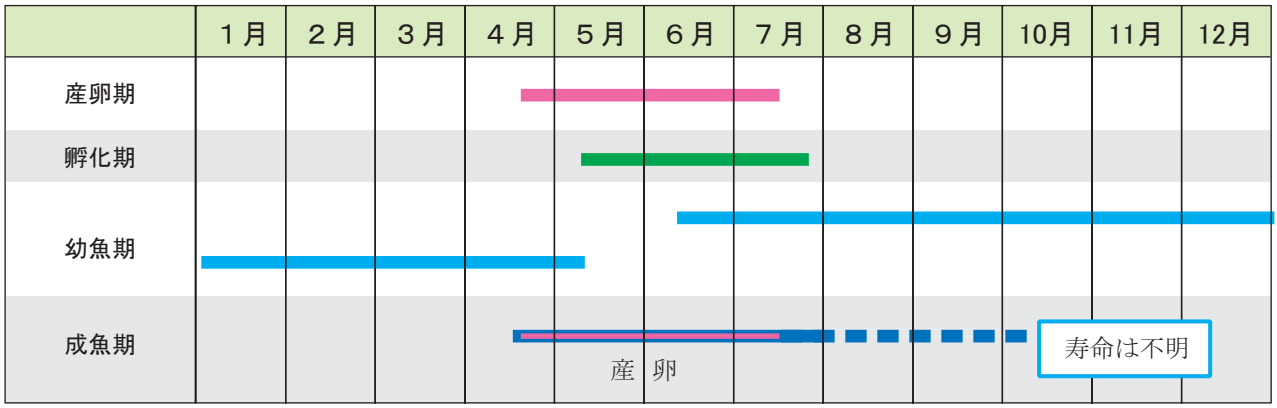
ドジョウはエゾホトケより細長く、尾ビレの基部に黒斑がない。

口ヒゲの数は、ドジョウが10本（５対）、エゾホトケが８本（４対）、フクドジョウが６本（３対）。

類似種のドジョウ。尾ビレは円く、口ヒゲは５対10本

類似種のエゾホトケドジョウ。
尾ビレは円く、口ヒゲは４対８本、オスには黒いライン

生活サイクル



一　生

産卵期は４～７月。２年で10cmに達して成熟する。
寿命は不明。

生息環境・分布

湖沼や下流から上流までに分布し、特に瀬の石礫底で礫のすき間に生息する。稚魚期は河岸近くの流れが緩い砂泥堆積場所や水生植物や礫の間に暮らすという。
分布：朝鮮半島、サハリン、中国東北部、シベリアなどに分布する。
国内では北海道のみに見られ、ほぼ全域に分布。
十勝に広く分布する。下流～上流まで分布しているが、主に中流域。十勝では最も普通にみられるドジョウの仲間。

食　性

雑食性だが、水生昆虫などを好んで食べる。

繁殖生態

産卵期は４～７月。産卵場所は礫のある川底。産卵期になるとオス・メスともに小さな追星が現れる。特にオスでは頭部の頬とえらぶたなどに多数の追星が見られる。
石の下に10尾ほどが集まっているのが見かけられるという。
卵表面全体に多くの粘着糸があり、他のドジョウ類と比べて、粘着力が強い。水温10℃程度の時、約１週間でふ化。

他生物との関わり

稚魚期には、水深の浅い止水域で群れているため、鳥の餌となったり、他の魚類に捕食されることがある。(妹尾優二)

興味深い話

■浅瀬の礫底で、タモ網を上流向きに構え、上流の石を足で掘るようにして追い出してやると簡単に捕獲できるので、観察に向く。
■十勝地方のアイヌ語では、ドジョウ類一般に「チチラカン」と呼ばれる。

上から見たフクドジョウ

配慮事項

生息場所、産卵場所として礫質河床を必要とする。稚魚期や避難場所として流れの緩いワンド状の場所も必要。
河床に浮き石が存在すれば、多少の変化（河川の直線化など）には強い魚である。水温の変化にも強い。(妹尾優二)

参考文献
「山渓カラー名鑑　日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と渓谷社　1989
「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社　1984
「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996
「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房　1997川づくりのための魚類ガイド、北海道河川環境研究会、（財）北海道建設技術センター、2001
「原色日本淡水魚類図鑑」宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦、保育社、1963（1976全改訂新版）
「自然復元特集４ 魚から見た水環境－復元生態学に向けて／河川編－」森誠一 監修・編集、信山社サイテック、1998

★ 妹尾優二：(株)エコテック、流域生態研究所